

島根大学医学部内科学講座内科学第四医局報

道



～令和3年秋号～



2021年11月 八百万の神々が集う出雲大社

『道』

この道を行けば
どうなるものか
危ぶむ無かれ
危ぶめば道はなし
踏み出せば
その一足が道となり
その一足が道となる
迷わず行けよ
行けばわかるさ

～ タイトル『道』の由来について ～

『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。

内科学第四医局員・学内同門名簿

(2021年12月現在)

■内科学第四

田邊 一明 (医学部附属病院副病院長、教授・循環器内科診療科長)

■循環器内科

遠藤 昭博 (准教授・副診療科長)

渡邊 伸英 (助教・医局長)

佐藤 寛大 (助教)

Minneapolis Heart Institute Foundation 留学中

大内 武 (助教・外来医長)

香川 雄三 (助教・病棟医長)

山口 一人 (助教)

川原 洋 (医員)

大嶋 丈史 (医員)

坂本 考弘 (医員)

安田 優 (医員)

川波 由佳 (医員)

佐々木 拓志 (医員)

村上 慧 (医員)

(学外)

浅沼 俊彦 (島根大学客員教授)

岡田 大司 (神戸市立医療センター中央市民病院)

中村 琢 (松江市立病院)

和氣 正樹 (東京大学)

松田 紘治 (松江市立病院)

岡崎 浩一 (済生会江津総合病院)

黒田 紘章 (益田赤十字病院)

森田 祐介 (札幌心臓血管クリニック)

山口 直人 (松江市立病院)

三浦 重禎 (浜田医療センター)

石倉 正大 (神戸市立医療センター中央市民病院)

古志野 海人 (益田赤十字病院)

吉岡 さゆり (心臓血管研究所付属病院)

清水 彩華 (済生会江津総合病院)

田邊 淳也 (済生会江津総合病院)

山口 まどか (島根県立中央病院)

■腎臓内科

伊藤 孝史 (ワーキング・イノベーションセンター准教授、診療科長)

江川 雅博 (助教)

福永 昇平 (助教)

川西 未波留 (医員)

大庭 雅史 (医員)

園田 裕隆 (医員)

亀井 史佳 (医員)

(学外)

松井 浩輔 (出雲市民病院)

岡 朋大 (平成記念病院)

花田 健 (松江赤十字病院)

中西 宣太 (松江赤十字病院)

吉金 かおり (おおつかクリニック)

岩下 裕 (浜田医療センター)

山内 明日香 (近江八幡市立総合医療センター)

岩下 裕子 (浜田医療センター)

佐藤 陽隆 (島根県立中央病院)

高瀬 健太郎 (島根県立中央病院)

芦村 龍一 (大阪大学)

星野 祐輝 (浜田医療センター)

■内科学第四資料室

影山 久美子

武田 瞳

大國 視子

■総合医療学講座

高橋 伸幸 (教授・大田総合医育成センター)

■検査部

吉富 裕之 (助教)

■救命救急センター

小谷 暢啓 (講師)

■留学生

Ahmed T. Shamim (バングラディッシュ)

Rasel Miah (バングラディッシュ)

教授挨拶



内科学講座内科学第四 教授 田邊 一明

今年の流行語がそんなこともあったな、と思い出させます。新型コロナウイルス感染症の第5波はひとまず収束しましたが、それぞれのお立場で大変な時期を過ごされたと思います。ヨーロッパでの感染再拡大、オミクロン株、ワクチンの3回目接種の準備、と落ち着かない日々がまだまだ続きそうです。2021年9月は鳥根県の要請を受けて、大学も県外出張が原則禁止となりました。お隣の米子市で開催される学会に遠方からの現地出席があったにもかかわらず、鳥根からオンライン参加を余儀なくされました。その制限も10月に入って解除され、11月には循環器内科新入局3人の研修旅行を兼ねて札幌心臓血管クリニックを訪問しました(写真)。旅をして、人と直接会い、話をすることはいいものだとあらためて感じました。



同門の鹿島由史先生から説明を受ける新人の3人(札幌心臓血管クリニックにて)

コロナ禍で「深刻になることなく、真剣に」と取り組んできたことを報告します。

1) 地域医療と密接な連携

昨年から今年にかけて心不全の新たな治療薬が出てきたこともあり、ガイドラインもアップデートされ、この時代が心不全診療の新しい幕開けとされています。ちょうどこのタイミングで出雲地区心不全連携研究会を立ち上げ、地域の病院・医院のみならず、薬剤師、看護師、保健所、行政の方々と勉強の場として、そして連携のための心不全手帳作成に取り組んでいます。Googleのリサーチチームが発見した効果的なチームにおいて圧倒的に重要なのが「心理的安全性」だそうです。この地域でメンバー同士が健全に意見を戦わせ、生産的で良い仕事することに力を注げるチームを作るために、この「心理的安全性」をテーマに掲げました。①話しやすさ「何を言っても大丈夫」、②助け合い「困ったときはお互い様」、③挑戦「とりあえずやってみよう」、のコンセプトで心不全連携のチーム構築をしていきたいと考えています。

2) 質の高い医療

経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)を順調に実施できています。2018年4月に鳥根県第1例目のTAVIを実施してから3年が経過し、2021年8月には通算100例目に到達しました。心臓血管外科、麻酔科、放射線科、手術部や看護師、臨床工学士、理学療法士ほか多くのスタッフの協

力により、全例手技は成功し、良好な成績を得ています。以前から重症大動脈弁狭窄症と診断されていた80歳代女性は野菜作りが大好きで、寒い日も畑に出て、ついに心不全となり緊急搬送されてきました。何とかTAVIにたどり着いて、無事に退院できました。あれから2年が経過しま

したが、毎回の外来に取れた野菜を持って来られます。私はクラークさんや看護師さんに配るのですが、TAVIという治療の恩恵にあずかれるこの時代の高齢者を診ながら、TAVIのすばらしさを実感しています。



TAVI 100 例到達

大学病院はコロナの重症も非コロナの重症も受け入れるという方針で押し寄せる波に向かっていましたが、さすがに第5波は中等症、軽症、小児や妊婦さんのコロナ感染例も受け入れ、もう1例コロナ重症例が来たら、全科でコロナに対応するためにTAVIなどの予定した手術ができなくなる手前まで来ていました。

3) 情報発信

学会はハイブリッド開催が主流ですが、オンライン参加のメリットと、何よりも大学の出張制限で自室からの参加ばかりでした。海外の学会に演題を出すモチベーションも失せ、自分の役割以外はオンディマンドで、と思いつつそのまま時間が過ぎていきます。学会は会場に行くから勉強していたな、と集まりたい古い人間は思います。一方で、若い先生たちには、これまでなら行きたくても行けなかった学会を居ながらにして聴講できるので、オンラインで視

聴しまくりの人も出てきました。この時代は関わり方によってもものすごい差ができるなと感じています。昨年から若い先生たちに論文投稿の競争意識が生まれ、今年も症例報告が中心ですが英語論文数が増えています。医局員の要望もあり、医局の廊下にボードを設置し、英語論文のタイトルページのみ掲示するようにしました。2020年1月に掲載された論文から順に並べ、A4サイズで計42編の論文が掲示できます。半分くらいは埋まるかなと思っていたのですが、この2年間でついに一杯になり、さらには古い論文（と言っても2020年1月掲載分）を新しい論文に差し替えるところまでできました。カンファレンスで言及したことを1960年代の論文まで紐解いてまとめてくれる人も現れ、若い力が楽しみで仕方ありません。

そうこうしているうちに、コロナもどこかへ行き、WEBの会議や講演会で「退出」のボタンを押して一人ぼちになる時代が終わることを願っています。



医局報～秋号～に寄せて



腎臓内科 診療科長・診療教授
ワーキング・イノベーションセンター 准教授・センター長
血液浄化治療部長
伊藤 孝史



令和3年度上半期も新型コロナウイルス感染症に振り回され、やっと少し落ち着いてきたと思ったら、もう

12月です。みなさんもコロナ対策等で大変ご苦労なされたことと思います。このまま落ち着いて、またみなさんとお目にかかれる日がくることを願うばかりです。

令和3年度上半期の腎臓内科の活動報告をさせていただきます。平成31年（令和元年）度島根大学卒業の亀井史佳先生が入局してくれて、腎臓内科も勢いを取り戻しました。日々成長していく姿を見て、我々も頑張らなければと気を引き締めています。

島根大学内の業務としては、バスキュラーアクセスの造設手術も出雲市民病院の松井浩輔先生の診療支援のおかげで、順調に症例を積み重ねています。血液浄化治療部では、新しく泌尿器科学講座教授に就任された和田耕一郎先生に副部長にご就任いただき、引き続き泌尿器科と連携し、業務にあたっています。今後、腎移植医療も推進されていきます。

学生教育に関しては、徐々に病棟・外来実習も対面形式で行えるようになってきていますが、外来実習や回診等はいまだ十分ではなく、腎臓内科の楽しさや我々の熱い気持ちを十分に伝えられないのは残念です。

学会活動では、第66回日本透析医学会学術集会・総会は6/4-6にパシフィコ横浜を会場にハイブリッド開催でしたが、現地参加はできませんでした。同様に第46回日本腎臓学会学術総会は6/18-20にパシフィコ横浜を会場にハイブリッド開催でしたが、こちらも現地参加ができませんでした。腎・透析領域最大の両学会に参加することは、発表、聴講はもちろんのこと、全国の先生方との交流、情報交換も大切な目的ですが、webではそれも叶わず、本当に寂しい限りでした。来年こそ現地参加できるように願っています。10/15-16に開催された第51回日本腎臓学会西部学術大会では亀井先生が一般演題の発表でしたが、これも完全webとなりビデオでの発表となってしまいました。腎臓内科医になって初めての学会でしたので、現地で発表させてあげたかったです。第42回日本アフェレス学会学術

大会は10/16-17に東京新宿を会場にハイブリッド開催でした。「腎疾患に対するアフェレス療法の新展開」というシンポジウムで伊藤が座長をし、福永先生がシンポジストとして発表しました。また、総会で福永先生が日本アフェレス学会の評議員に選出・承認されました。これからの活躍を期待しています。11/6にweb開催された第125回日本内科学会中国地方会では、初期研修医一年目の岡本華奈先生が発表してくださいました。初めての発表でしたが、スライドの作成、考察などもしっかりしていて、本番の質問にもきちんと答えることができ、素晴らしい出来でした。ありがとうございました。

そして、12/10-11に第32回日本サイコネフロロジー学会学術集会・総会を主催させていただきます。サイコネフロロジー学会の創始者の一人である春木繁一先生（元島根大学医学部神経精神医学講座）が第6回大会を松江で開催されてから四半世紀ぶりに松江に帰ってくるということで、テーマは「原点回帰」とさせていただきます。ギリギリまで現地開催（松江市 くにびきメッセ）の方向性を模索しましたが、残念ながらライブ配信+オンデマンド配信となりました。神在月にみなさんと出雲の地でお目にかかることを楽しみにして準備をしていたので、本当に残念ではありません。

第32回 日本サイコネフロロジー学会 学術集会・総会

WEB開催

ライブ配信	2021年
12月11日(土)・12日(日)	
オンデマンド配信	2021年
12月16日(木)～	
12月28日(火)	

「原点回帰」

【大会長】伊藤 孝史(島根大学医学部附属病院 腎臓内科 診療教授)
【事務局長】福永 良平(島根大学医学部附属病院 腎臓内科 助教)

Information

CKD啓発活動では、毎年秋に行っていた市民公開講座「慢性腎臓病（CKD）対策は開催することができません」厚生労働科学研究費補助金（腎疾患対策研究事業）「慢性腎臓病（CKD）に対する全国での普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献」（研究代表者 伊藤孝史）の研究も最終年の3年目に入りましたが、島根県内での活動も十分にできてはいません。しかし、その中でも出雲市のCKD重症化予防のデータを論文化することができました。（Effectiveness of CKD Exacerbation Countermeasures in Izumo City. Ito

T, et al. J Pers Med. 2021;11 (11) :1104. doi: 10.3390/jpm11111104.) 今後は県内の8市11町村のCKD担当部署の方々と協力して、CKDの普及・啓発活動を進めるために動き始めたところです。

今後も山陰での腎臓病診療を支え、そして全国、世界に発信できる仕事ができるように頑張っていく所存ですので、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

コロナ禍が終息し、それまでの日常に戻り、また先生方と直接お目にかかってお話しさせていただける日を楽しみにしております。



札幌心臓血管クリニック国内留学報告

循環器内科 森田 祐介



藤田勉理事長と。
後ろに写っているのが Robot PCI のコントローラーです。

2021年4月から、北海道札幌市東区にあります札幌心臓血管クリニックに国内留学させていただいておりますのでその報告をさせていただきます。北海道にきて一番驚いたことは、日本の東端に位置しますので、6月にもなれば朝3時半頃に日の出となることです。当直で仮眠をとろうと思って布団に入ると、すでに外が明るいのでなかなか寝つけません。ゴルフ場の早朝ラウンドも朝4時からオープンしているようでした。また、やはり北海道は寒いです。4月にも、そしてすでに11月に雪が積もる状況ですが、一方で夏の天候は良く、梅雨がないため雨もほとんど降らず快適に過ごせます。コロナ患者数も多かった北海道ですが、心臓血管クリニックは単科病院ですので発熱・コロナ患者の受け入れはしておりませんでした。札幌は怖いね、とよく言われましたが、テレビで日に日に増えていく患者数も当院では全く実感が湧きませんでした。

札幌心臓血管クリニックは島根大学卒の先生が3人在籍しております（内科2人、外科1人）。そのため非常に優しく指導していただき、またプライベートでも仲良く

させてもらっております。当院はご存知の通り、PCI件数は日本で2番目に多いです。PCI件数は年間2000-2600件で、それを6つのカテ室でこなしています（ハイブリッド1室、不整脈1室のため実質は虚血を4室でまわしています）。一つの施設でどのようにこれだけの症例数を集めることができるのか、と不思議でしたが実際にみて謎が解けました。「北海道新聞をみてきました」「CMを見て受診しました」「札幌ドームの広告をみました」などという患者が多く、1つはプロモーション活動を多くしていること。そして2つめにサテライト外来が道内に50施設くらいあることです。ドクター全員が定期的な外勤に行き（遠いところは飛行機で外勤にいきます）、そこで必要な患者さんを当院へ紹介します。さらには送迎サービスをしているため、高齢者でも札幌まで来ること苦にはならず紹介患者が必然的に増加するわけです。AMIも1-2時間かけて当院へ搬送されてきます（札幌市外になると大きな病院も限られます）。また、年々増加する患者数に対応するため、いつもどこかの工事をしている印象です。私に来てからもすでに数十床の増床工事を終え、ただそれでも追いつかないためさらに増床工事予定となっているようです。そして数年後には新病院への建て替え計画があり、そこではカテ室が10室になる予定です。

当院の理事長である藤田先生は田邊教授の国循環留学の同期ですが、朝4時に出勤し、全ての患者・紹介状チェックを行い、その後朝6時から前日のカテ施行患者家族へのIC、内科回診（我々はここから）で1日が始まります。回

診後は病棟業務や抄読会、その後8時半から内科・外科合同カンファレンスを行なっております。入院患者だけではなく外来患者も含めた治療方針の決定、PCI/CABG適応やTAVI/SAVR適応などに関して毎日カンファレンスを行っております。

その後からカテが始まるわけですが、私はここでPCIを学んでいます。当院では冠動脈石灰化病変に対するdebulking deviceとしては、主にRotablatorを使用しております。Rotablatorに関しては、今年から島根大学でも使用可能となりましたが、ここでは色々な症例を勉強することができます。全周性石灰化に対してはもちろんですが、偏心性石灰化や石灰化結節などに対する経験も積んでいます。これらは、藤田理事長はもちろんですが、主には同門の鹿島由史先生に教えていただいております。現在Rotablatorのプロクターの先生です。コロナ前までは海外への出張が多かったのですが、この一年は出張もほとんどなく、私としては非常に有意義な時間を過ごさせてもらっています。虚血治療が早く終われば、下肢血管内治療をみたり、ストラクチャーをみたり、ペースメーカなどは実際にさせてもらっています。また、当院ではRobot-assisted PCI（日本で治験施設以外の導入は初）、Robot-assisted CABG、MICS-AVR、MitraClip、ASDOなども行っているため、非常に勉強になっております。このような機会をいただきました田邊教授をはじめ、学内の先生、同門の先生には感謝申し上げます。精一杯やっておりますので、今後よろしくお願いいたします。



同門の鹿島由史先生と。同じカテ室に配属され、常に横で指導してもらっています。基本は自分で治療するのですが、Rotablatorや複雑手技などは助けてもらうこともあります。

1. Morita Y, Yoshitomi H, Ishikura M, Endo A, Tanabe K. Cor triatrium dexter with atrial septal defect and mitral valve regurgitation. *J Echocardiogr* 2021;19:118-120
2. Morita Y, Endo A, Kagawa Y, Yamaguchi K, Sato H, Ouchi T, Watanabe N, Tanabe K. Clinical effectiveness and adverse events associated with tolvaptan in patients above 90 years of age with acute decompensated heart failure. *Heart Vessels* 2021;36(6):836-843
3. Morita Y, Endo A, Tanabe K. Accelerated idioventricular rhythm following transcatheter self-expandable aortic valve implantation. *Circ Rep* 2021;3:421-422
4. Sakamoto T, Kagawa Y, Endo A, Tanabe K. Intense emotional stress over potential coronavirus disease vaccination side effects leads to takotsubo cardiomyopathy. *Circ Rep* 2021;3:476-477
5. Morita Y, Endo A, Tanabe K. Papillary muscle rupture after transcatheter aortic valve implantation. *Catheter Cardiovasc Interv* 2021;98:E306-309
6. Ishiguchi H, Shimizu A, Ishikura M, Yoshida M, Imoto K, Sonoyama K, Kawabata T, Sugamori T, Ogawa M, Uchida T, Nakamura T, Morimoto T, Yasuda Y, Tanabe K, Yoshiga Y, Okamura T, Kobayashi S, Yano M, Oda T. The association between atrial high rate episode and ischemic/major bleeding events in patients with cardiac implantable electronic device: A 10-year single-center cohort study. *Circ J* 2021;85:1329-1337
7. Tanabe J, Kagawa Y, Endo A, Tanabe K. Spontaneous coronary artery dissection associated with psychological stress. *BMJ Case Rep* 2021;14:e245414
8. Yamasaki T, Hayashi K, Shibata Y, Furuta T, Yamamoto K, Uchimura M, Fujiwara Y, Nakagawa F, Kambara M, Yoshikane T, Nagai H, Akiyama Y, Tanabe K, Tanabe J. A case of takotsubo cardiomyopathy following mechanical thrombectomy for acute ischemic stroke. *Journal of Neurosurgery* 2021;2:CASE21372
9. Fukunaga S, Kamei F, Sonoda H, Oba M, Kawanishi M, Egawa M, Ito T, Tanabe K. Detection of autosomal dominant polycystic kidney disease by medical checkup at an early stage. *Cureus* 2021;13 (10) :e18595
10. Koshino K, Endo A, Watanabe N, Okazaki K, Tanabe K. Hydroxyzine induced Torsade de Pointes in a patient with complete atrioventricular block. *Intern Med* 2021; 60:3257-3260
11. Nagasu H, Yano Y, Kanegae H, Heerspink HJL, Nangaku M, Hirakawa Y, Sugawara Y, Nakagawa N, Tani Y, Wada J, Sugiyama H, Tsuruya K, Nakano T, Maruyama S, Wada T, Yamagata K, Narita I, Tamura K, Yanagita M, Terada Y, Shigematsu T, Sofue T, Ito T, Okada H, Nakashima N, Kataoka H, Ohe K, Okada M, Itano S, Nishiyama A, Kanda E, Ueki K, Kashihara N. Kidney outcomes associated with SGLT2 inhibitors versus other glucose-lowering drugs in real-world clinical practice: The Japan Chronic Kidney Disease Database. *Diabetes Care*. 2021;44:2542-2551.
12. Ito T, Kamei F, Sonoda H, Oba M, Kawanishi M, Yoshimura R, Fukunaga S, Egawa M. Effectiveness of CKD Exacerbation Countermeasures in Izumo City. *J Pers Med*. 2021;11:1104.
13. Sato H, Takase K, Matsui K, Ishitobi T, Onuma H, Kin S, Ito T. IgA Vasculitis in an Oldest-old Patient Successfully Treated with Glucocorticoid. *Intern Med* (published online 2021.6.26)
14. Sakamoto T, Tanabe K. Assessment of organ congestion in patients with heart failure by ultrasonography. *J Echocardiogr* (published online 2021.7.27)
15. Tanabe J, Okazaki K, Endo A, Tanabe K. Left ventricular intramyocardial dissecting hematoma. *CASE* (published online 2021.9.2)
16. Endo A, Morita Y, Yasuda Y, Kawahara H, Kagawa Y, Tanabe K. Very late stent thrombosis after discontinuation of antiplatelet agents during anticoagulation therapy in a patient with peri-stent contrast staining after implantation of a second-generation drug-eluting stent. *Intern Med* (published online 2021.9.25)
17. Mitarai Y, Nakashima K, Fukunaga S, Ishikawa N, Ito T, Tsubata Y, Isobe T. IgA nephropathy that developed as an immune-related adverse event of Pembrolizumab complicated with interstitial nephritis: a case study. *Intern Med* (published online 2021.11.27)
18. 川波由佳、香川雄三、吉富裕之、森田祐介、松田紘治、川原 洋、山口一人、佐藤寛大、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 急性肺血栓塞栓症と鑑別を要し肺腫瘍源性塞栓性微小血管症が疑われた1例. *心臓* 2021;53:833-839
19. 福永昇平、星野祐輝、大庭雅史、川西未波留、吉金かおり、江川雅博、伊藤孝史、田邊一明. 後期高齢者に対する腎生検の安全性と有用性に関する検討. *日老医誌*2021;58:453-458
20. 遠藤昭博、田邊一明. 高齢者大動脈弁狭窄症治療のトピックスー経カテーテル大動脈弁留置術 (Transcatheter Aortic Valve Implantation: TAVI)ー. *島根医学* 2021;41:7-16

21. 古志野海人、岡田祐介、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、鈴木律朗、田邊一明. アントラサイクリン系薬剤投与後にたこつぼ症候群を発症した1例. 心臓2021;53:1223-1229



雑誌心臓に掲載された川波先生、古志野先生の論文の図がそれぞれ表紙を飾りました

学会・研究会発表 (2021 年春号以降)

1. 福永昇平、星野祐輝、大庭雅史、川西未波留、吉金かおり、江川雅博、塩野 学、伊藤孝史. エテルカルセチドで効果がなく、エボカルセトでint PTHの低下が得られた血液透析患者の1例. 第66回日本透析医学会学術集会・総会. 2021.6.4-7、横浜
2. 田邊淳也、山口一人、岡崎浩一、古志野海人、坂本考弘、安田 優、森田祐介、大嶋丈史、川原 洋、大内 武、香川雄三、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 亜急性心筋梗塞に心筋解離を合併した一例. 第116回/118回日本循環器学会中国・四国地方会. 2021.6.5-6
3. 小川敦子、小田川誠治、森田祐介、田邊一明. 身体所見が診断の決め手となったPlatypnea—orthodeoxia症候群の一例. 第124回日本内科学会中国地方会. 2021.6.20
4. 古志野海人、吉富裕之、森田祐介、川原 洋、大内 武、香川雄三、渡邊伸英、遠藤昭博、織田禎二、田邊一明. 無症候性Stanford A型大動脈解離を発症したマルファン症候群の1例. 第124回日本内科学会中国地方会. 2021.6.20
5. 川波由佳、香川雄三、坂本考弘、吉富裕之、大嶋丈史、大内 武、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、田邊一明. IgG 4関連心膜炎と診断しステロイド治療が奏功した1例. 第124回日本内科学会中国地方会. 2021.6.20
6. 田邊淳也、渡邊伸英、伊東麻由菜、川北恵美、山口一人、遠藤昭博、吉富裕之、金崎啓造、田邊一明. 低心拍出症候群との鑑別を要した免疫関連副腎機能不全の1例. 第124回日本内科学会中国地方会. 2021.6.20
7. Endo A, Yasuda Y, Kawahara H, Kagawa Y, Sakamoto T, Ouchi T, Watanabe N, Yamaguchi K, Yoshitomi H, Tanabe K. The effectiveness of strict low-density lipoprotein cholesterol management in secondary prevention of Japanese patients. ESC Congress 2021. 2021.8.27-31
8. 大内 武、坂本考弘、安田 優、山口一人、川原 洋、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 治療法の異なるATTRvアミロイドーシスの姉妹例. 第69回日本心臓病学会学術集会. 2021.9.17-19、米子
9. 遠藤昭博、田邊一明. 島根県における急性冠症候群診療と循環器内科医の働き方改革. 第69回日本心臓病学会学術集会. 2021.9.17-19、米子

10. 田邊淳也、渡邊伸英、伊東麻由菜、川北恵美、山口一人、遠藤昭博、吉富裕之、金崎啓造、田邊一明. 低心拍出症候群と鑑別を要した免疫関連副腎機能不全の一例. 第4回日本腫瘍循環器学会学術集会. 2021.10.12-14
11. 田邊一明. シンポジウム6. 放射線治療後の心筋症・心膜疾患. 第4回日本腫瘍循環器学会学術集会. 2021.10.12-14
12. 亀井史佳、大庭雅史、園田裕隆、川西未波留、福永昇平、江川雅博、田原大資、村川洋子、伊藤孝史. タクロリムスが原因と考えられた低マグネシウム血症の一例. 第51回日本腎臓学会西部学術大会. 2021.10.15-16
13. 星野祐輝、岩下裕子、岩下 裕. 高齢発症のIVCY抵抗性MPAに対してRTXが有効であった一例. 第51回日本腎臓学会西部学術大会. 2021.10.15-16
14. 福永昇平、伊藤孝史. コレステロール結晶塞栓症に対するLDLアフェレシスについて. 第42回日本アフェレシス学会学術大会. 2021.10.16-17、東京
15. 平川晋也、花房規男、石森 勇、和田篤志、大久保淳、岩本ひとみ、中永士師明、佐藤元美、太田秀一、清島真理子、横山陽子、伊藤孝史、草生真規雄、王子 聡、村上 淳、土谷 健、斯波真理子、山路 健、松尾秀徳. 第42回日本アフェレシス学会学術大会. 2021.10.16-17、東京
16. 大嶋丈史、坂本考弘、安田 優、川原 洋、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明、吉富裕之. Combined pulmonary fibrosis and emphysemaに合併する肺高血圧症に対してシルデナフィル投与を行った1例. 第125回日本内科学会中国地方会. 2021.11.6
17. 安田 優、大嶋丈史、川原 洋、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明、吉富裕之、織田禎二. 心膜剥離術前後の心機能変化を心エコー図検査で評価した収縮性心膜炎の1例. 第125回日本内科学会中国地方会. 2021.11.6
18. 川原 洋、安田 優、坂本考弘、大嶋丈史、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明、吉富裕之. 徐脈性心房細動の原因を特定できペースメーカー留置を回避できた1例. 第125回日本内科学会中国地方会. 2021.11.6
19. 川波由佳、安田 優、香川雄三、大嶋丈史、大内 武、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、田邊一明、吉富裕之. 超高齢の全身性強皮症に合併した心外膜炎に対して、ステロイド全身投与が有効であった1例. 第125回日本内科学会中国地方会. 2021.11.6
20. 岡本華奈、川西未波留、亀井史佳、園田裕隆、大庭雅史、福永昇平、江川雅博、伊藤孝史. Castleman病の診断に苦慮した症例. 第125回日本内科学会中国地方会. 2021.11.6
21. 田邊淳也. 先天性疾患における移行期医療～島根県における成人先天性心疾患診療の状況. 第119回日本循環器学会中国地方会. 2021.11.27、岡山
22. 遠藤昭博. 無症候性重症大動脈弁狭窄症に対する治療戦略. 第119回日本循環器学会中国地方会. 2021.11.27、岡山
23. 村上 慧、香川雄三、大嶋丈史、安田 優、坂本考弘、川原 洋、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 心エコー図検査と冠動脈造影検査の解離のあったST上昇型心筋梗塞の一例. 第119回日本循環器学会中国地方会. 2021.11.27、岡山
24. 川波由佳、川原 洋、吉富裕之、吉岡さゆり、坂本考弘、大嶋丈史、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、田邊一明. 多胎出産を契機に心不全を発症したストレートバック症候群背景の僧帽弁逸脱症の一例. 第119回日本循環器学会中国地方会. 2021.11.27、岡山
25. 佐々木拓志、川波由佳、村上 慧、吉岡さゆり、坂本考弘、安田 優、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. Hodgkinリンパ腫化学放射線治療後の放射線心膜炎に対して心膜開窓術を施行した1例. 第119回日本循環器学会中国地方会. 2021.11.27、岡山

第22回島根心・腎・血管研究会

田邊 一明

同門会総会・懇親会は2年続けて中止となりましたが、同日に行っております島根心・腎・血管研究会は2021年10月16日(土)に2年ぶりにオンラインで開催しました。どの程度のご参加があるのか不安でしたが、50名近くの先生方にご参加いただき感激しました。演者も気合が入り時間が延びましたが、お付き合いいただき感謝します。

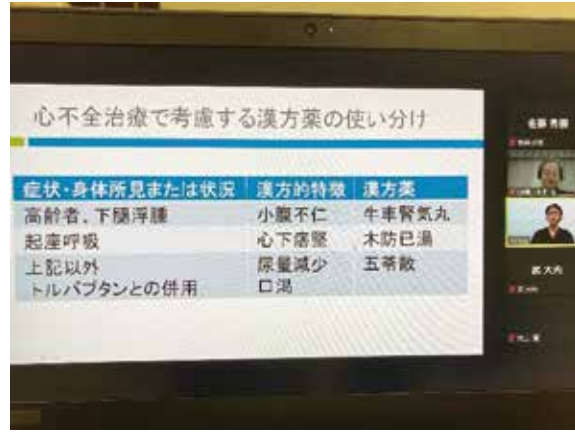
一般演題は腎臓内科の大庭先生、循環器内科の佐々木先

生、川波先生、村上先生にそれぞれが経験した貴重な症例について報告していただきました。自室からのオンラインの発表が当たり前になり、若い医師たちが壇上で頭真っ白状態を経験する機会が得られないのが各学会でも問題視されています。将来の名演者を育てる場が必要だと考えられています。それでも各先生はよく準備されており、発表を通じて臨床力を上げる契機になったことと思います。

特別講演は2020年から2021年が心不全治療の新たな幕開けと位置付けられていることから、「心不全の薬物治療」について西洋医学編を循環器内科・大内武先生、東洋医学編を神戸海星病院・北村順先生にお願いしました。10年前のこの研究会で北村先生に講演していただいたのが「循環器医が知っておくべき漢方薬」を世に出すきっかけとなりました。2021年の日本循環器学会、心臓病学会、心不全学

会と主要な全国学会で漢方薬のシンポジウムが開催される時代となり、北村先生はいずれも演者として名を連ねられました。西洋医学の治療の隙間を埋める漢方薬のコンセプトが浸透してきています。

本来であれば研究会の後は「祝宴」へと移り、交流の場となるはずですが、一人で乾杯しながら、温もりのある交流の機会が戻ってくることを願いました。



Echo Heart Izumo 2021

田邊 一明



2009年から出雲に心エコーの神様たちを招いて心エコー講習会（Echo Heart Izumo）を開催していましたが、昨年は中止となり、今年も集合しての講習会開催が難しい中でオンライン開催することができました。学会や全国講習会で今年流行のテーマで、しかもそこで座長をされるような先生方に一コマ40分とたっぷり時間をかけて教えていただく機会として企画しました。今回はストレイン法、機能性僧帽弁逆流、MitraClip、人工知能の4つのテーマ

について勉強しました。オンライン講演会は無観客の漫才を聞くのと同じで聴衆の反応がわかりません。受けているのか受けていないのか判断するのは、自分がわくわくしているかどうかしかありません。一流の講師の先生方による講演は期待以上の内容で、あっという間に時間は過ぎ去りました。島根の心エコー検査レベルの均てん化、向上のために今後も仲間たちとできることをやっていきたいと思えます。



日々肌寒さが増してくる今日この頃ですが、同門会員、そして医局員の皆様には益々御清栄の事とお慶び申し上げます。

新型コロナ感染症で最近はおミクロン株の感染も散見されるようになってはきましたが、ワクチンの効果が感染者数が激減し、街の賑わいも少しずつ戻ってきたように感じられます。2021年も同門会総会、そして田邊杯ゴルフコンペも中止せざるを得ず、皆様には大変申し訳なく思っております。2022年は是非とも開催できるよう願いながら準備して参ります。詳細が決まりましたら改めてご連絡させていただきますので何卒よろしくお願い申し上げます。

先日、今年度の循環器内科の新入医局員の3名の先生と会食する機会がありました。川波先生、佐々木先生、村上先生で、入局されてから初めてゆっくりお話することが出来ました。3名の先生とも、快活で素晴らしく、夢と希望にあふれた話しぶりと笑顔で魅了されました。これで内科学第四の将来は安泰だと確信いたしました。2022年にはまた新入医局員の先生をお迎えすることができるようで、大変喜ばしいことです。これからも更に内科学講座内科学第四が発展することを願い、同門会として全力で応援させていただきます。

今後とも私と井上副会長に皆様のお力添えをどうかよろしくお願い申し上げます。時節柄、同門会そして医局の皆様もどうかご自愛ください。2022年の同門会総会で皆様にお会いできることを楽しみにしております。



佐藤内科クリニック 佐藤 秀俊

道

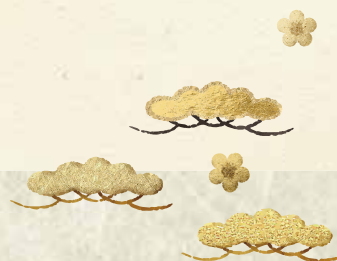


編集後記

成人先天性心疾患の小児科から内科への移行期医療が話題になっています。大学小児科の安田謙二先生がまとめられたデータでは、大学の小児科外来に80人ほどの“成人”先天性心疾患患者さんが通院されており、循環器内科へ移行をしていくことが課題となっています（2022年1月に開催されます日本成人先天性心疾患学会で発表されます）。島根大学病院は山陰地方唯一の先天性心疾患に対する外科治療を行う施設であり、年間50～70例の先天性心疾患に対する手術が行われています。成人先天性心疾患学会から専門医を養成する修練施設にも認定されています。連携する岡山大学病院では成人先天性心疾患外来を担当されるのは講師以上の医師だそうで、臨床経験はもとより多くの診療科との連携も必要となってきます。長く経過を診てあげられる専門医を養成していく必要があります。島根大学循環器内科でも成人先天性心疾患専門外来を開設しています。専門外来は田邊が担当していますが、毎日の循環器内科外来に紹介していただいてもかまいません。2022年が良い年になりますように、そして皆様のご健康をお祈りします。（田邊）



観葉植物が増えました



島根大学医学部内科学講座内科学第四

循環器内科・腎臓内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話 (0853) 20-2206 (医局資料室ダイヤルイン)

Fax (0853) 20-2201 (医局資料室)

循環器内科ホットライン 070-5672-8109

URL: https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html